

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立狭山清陵高等学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	校訓「たかく ゆたかに たくましく」を踏まえた目指す学校像である。学校を取り巻く環境や時代の変化、生徒の変容などを踏まえ、学校に求められる期待やニーズを広く把握して、次のステージに向けた学校像を模索していただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	生徒の変容を踏まえ、今年度「基本的な生活習慣の一層の向上」という文言が追加された。今後目指す学校像の検討の結果も踏まえ、家庭での学習時間の確保などの課題の解決に向けて、校内研修で掲げられた「一歩前進」という意識を共有し、実現するためにも、更に重点化した内容にすることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会を中心に、「教育活動評価シート（分掌・学年・教科等シート）」が集約され、学校全体のシートが作成されている。評価項目が、年度達成目標としては分かりにくいので、「教育活動評価シート」に示された課題や評価項目を精選して学校全体のシートを作成するなど、学校全体の取組となるよう組織的な体制を整備していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	方策と評価指標を設定するに当たり、職員会議等で教職員間の共通理解が図られており、多彩な進路ガイダンスが1年生から計画的に実施され、成果も出始めている。評価指標については、方策の達成状況を評価するものとは必ずしもなっていないため、取組指標と成果指標をうまく組み合わせることで分かりやすいものを設定することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は重点目標に解決すべき課題を加え、学校自己評価システムを生かした学校経営に取り組もうとしている。校長が状況に即して的確にリーダーシップを発揮し、学力向上といった課題の解決の方向を示している。目標の達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	保護者アンケートや生徒アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。学校関係者の意見やアンケートの結果等を丁寧に分析して達成状況や課題を把握し、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。	
特記事項			